

知事記者会見の概要

日 時：令和5年11月22日(水) 14:30～15:23

場 所：502会議室

出席記者：13名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 「山形県脱炭素社会づくり条例」の愛称決定について
- (2) タイでのトップセールスの実施について

代表質問

- (1) 今年の一等米比率の結果を受けた今後の対策について

フリー質問

- (1) 雪若丸の販売促進に向けた課題について
- (2) 次期知事選の対応について
- (3) 米沢トンネル(仮称)について
- (4) JR東日本による利用の少ない線区の経営情報の開示について
- (5) 発表事項2に関連して
- (6) モンテディオ山形のプレーオフ進出について
- (7) 宮城県大衡村への半導体工場の建設について
- (8) 「やまがた鉄道沿線活性化プロジェクト」について
- (9) 代表質問に関連して
- (10) ライドシェアの導入について

☆報告事項

知事

皆様、こんにちは。昨日今日と小春日和が続いておりますけれども、今年の夏を思い出してみますと本当に異常な暑さでありました。その後も平年を上回る気温の高い日が続いていたところですが、秋も深まってきまして、気温が急激に下がってきております。

今週前半は温かい日が続くということですが、气象台によりますと、今週末は、今季一番の冷え込みとなって、平地部においても降雪が見込まれております。いよいよ雪の出番であります。

県民の皆様には、急激な寒暖差による体調不良にご留意をいただきたいと思ひますし、今後の気象情報や道路情報に十分ご注意ください、冬用タイヤの装着など、しっかりと雪対策を行っていただきますようお願いいたします。

次にインフルエンザの流行について申し上げます。

全国では、先週 11 月 17 日公表された 1 定点当たりの新規感染者は 17.35 人でありました。このうち計 45 都道府県がインフルエンザ注意報の基準を上回っており、全国的に大きな流行が見られます。

県内では、本日公表した 1 定点当たりのインフルエンザ感染者数は、28.77 人となりました。13 週連続の増加であります。

特にこのうち、山形市、村山地域そして置賜地域では、1 定点当たり 30 人を超えておりまして、この 3 つの地域で警報レベルとなっております。警報レベル、これは 4 年ぶりということでもあります。

県では、11 月 1 日から県内全域にインフルエンザ注意報を発表し、県民の皆様にご感染予防を呼びかけております。これから寒い時期を迎え、さらに感染の拡大も予想される所です。

また、最近はいさいお子さんを中心に、インフルエンザのほかプール熱などの感染症も増加してきております。

県民の皆様には、新型コロナと同様に基本的な感染対策が重要でありますので、換気の徹底をはじめ、場面に応じたマスクの着用や手洗い・消毒を心がけていただきますとともに、体調不良時に備えて、市販の解熱鎮痛薬等のご準備をお勧めいたします。

それから、昨年 12 月 31 日に発生した鶴岡市西目地区の土砂災害の対応状況について申し上げます。

この度、県で進めております現地の土砂災害対策工事のうち、避難中の家屋の上部斜面で実施しておりました、地すべり観測機器および警報装置の設置が本日完了し、11 月 28 日から運用を開始できる見込みとなりましたのでご報告であります。

昨日、鶴岡市長が、斜面の状況や警報装置の設置状況を現地で確認したということでもあります。

鶴岡市からは「今後、緊急時の避難体制を構築し、避難指示の解除時期を検討して判断する」と聞いておりますので、引き続き、県では鶴岡市に、適時適切に情報提供を行ってまいります。

それから、去る10月26日から11月4日まで、ブラジルおよびペルー両国の県人会への訪問ならびにアメリカにおける県産日本酒プロモーションを実施しましたのでご報告いたします。

ブラジルは10年ぶり、ペルーは初めての訪問でありました。

最初の訪問地のブラジルでは、ブラジル山形県人会創立70周年記念の式典に参加してまいりました。式典では、県人会の方々のこれまでのご苦勞をねぎらうとともに、長きにわたって本県と現地との相互理解の深化と友好親善の発展に大きく貢献された方々に、表彰状などを贈呈いたしました。

ペルーでは、県人会幹部等と懇談し、今後の一層の交流の拡大を確認するとともに、ブラジル同様、本県との友好親善に寄与された方々に感謝状を贈呈してまいりました。ちなみにペルーの山形県人会は、今年で106周年でありまして、100周年のときにペルーの県人会長がこちらの県庁までおいでになって、100周年に出席してほしいと要望されたんですけども、私の諸般の事情で行くことができなかつたと、そういった経緯がございましたので今回ブラジルの次に訪問いたしました。

アメリカ・ロサンゼルスでは、県産日本酒の輸出拡大に向けて、県酒造組合とともに、現地の日本酒流通業者や地元メディアに対し、本県産日本酒のプロモーションを行い、大変好評をいただいたところであります。

なお、今回の訪問にあたりましては、ブラジルで2名、ペルーで10名、アメリカで6名の方々に、やまがた特命観光・つや姫大使を新たに委嘱し、今後、現地における本県の認知度向上に向けた積極的なPR活動などをお願いしてきたところであります。

それからモンテディオ山形ですが、11月18日に行われたJ2リーグのシーズン最終節におきまして、逆転の末ヴァンフォーレ甲府を下し、J1昇格プレーオフへの進出を決定しました。

シーズン終盤の5連勝で、最終的な順位も5位に上げるなど、モンテディオ山形の最後まであきらめずに粘り強く戦う姿は、県民に元気を与えてくれました。

J1昇格まであと2勝であります。プレーオフは、まず11月25日にアウェイで清水エスパルスとの準決勝が行われます。現在の勢いそのままに勝ち続けて、9年ぶりのJ1昇格を果たしていただくことを期待しております。

☆発表事項

知事

ここで私から発表2点ございます。

まず1点目は、「山形県脱炭素社会づくり条例」の愛称決定についてです。

県では、令和 2 年に「ゼロカーボンやまがた 2050」を宣言し、脱炭素社会の実現に向けて更なる推進を図るため、今年 4 月 1 日に「山形県脱炭素社会づくり条例」を施行いたしました。

この条例に親しみを持ってもらい、「ゼロカーボンやまがた 2050」の実現に向けて、県民一丸となって脱炭素化を推進するため愛称を募集しました。そしたら、県内外から 583 件の応募をいただいたところです。このたび、応募いただいた作品をもとに条例の愛称を決定しましたのでお知らせいたします。

(補足：ここで知事が条例の愛称が記載されたパネルを掲げる) 愛称は、「さくらんぼ未来の地球を守る条例」となります。この愛称は、本県において脱炭素社会づくりを推進することで地球温暖化を防ぎ、「山形」そして「地球」の未来を守るという思いが込められております。県民の皆さんには、この愛称とともに条例についてあらためてご理解いただき、脱炭素化の取組みを進めていただきますよう、お願いいたします。

(補足：知事がパネルに記載された「カーボンニュートラルやまがた」ロゴマークを指す) 小さいんですけども、このさくらんぼの一つがですね、真っ赤な山形県のさくらんぼになっておりまして、もう一つは地球になっております。それで山形とあと地球の未来を守るということになります。

なお、本日から家庭における脱炭素化の取組みとして、省エネ家電買換えキャンペーン第 2 弾を開始しますので、県民の皆様、ぜひご活用いただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

もう 1 点目ですが、タイでのトップセールスについてです。

来週、11 月 27 日から 11 月 30 日までの 4 日間、私を団長としてタイ王国を訪問し、トップセールスを実施してまいります。

今回の訪問は、今後の観光誘客拡大が期待される有望市場の一つであるタイにおきまして、現地の航空会社や旅行会社等に対し、本県の魅力ある観光資源を PR し、本県へのインバウンド誘客促進に向けた働きかけを行うものであります。

また、山形県タイ友好協会のタイミッションに合流し、地元大学関係者との交流などを通して、本県とタイとの経済、文化など幅広い分野での交流促進に結びつけてまいりたいと考えているところであります。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

さくらんぼテレビの白田です。

代表質問は、今年度の一等米比率を受けた今後の対策についてです。今年の猛暑の影響を受け、県産米の一等米比率が平均で 54.7%と東北で最も低く、記録が確認できる 2011 年以降最低となりました。地域別で見ますと、最上が 87.3%であるのに対し、庄内では 31.6%と大きな

差も出ています。

また、「つや姫」や「はえぬき」と比べ高温耐性が高い「雪若丸」は、比較的高い一等米比率を維持できたという結果も出ています。

今後も気温の上昇など異常気象となることが予想される中、県は米の生産対策をどのように進めていくか、方針を伺いたいと思います。

知事

はい、わかりました。この夏の高温・少雨に伴い、水稻は、全国的に品質低下が生じております。県内でも、一等米比率が大幅に低下し、現在の検査制度が始まった平成18年(2006年)以降で最も低くなっております。全国上位の一等米比率を維持してきた米どころ山形県としては、厳しい状況であると受け止めているところです。

このような中でも、「雪若丸」は、高い品質を維持しており、先月実施したJA組合長等との意見交換の際には、雪若丸の作付を拡大したいとのご要望をいただきました。このため、農林水産部におきまして、作付拡大に向けて関係機関等と調整を進めているところであります。

また、高温・少雨に伴う影響を詳細に解析して、速やかに技術対策をとりまとめ、指導を行いますとともに、高温耐性を持つ新たな品種の開発や栽培方法の研究を加速してまいりたいと考えております。

以上でございます。

記者

米どころとしては厳しい状況というお言葉がありました。知事としては、この一等米比率、ショックだったとかですね、所感をお願いいたします。

知事

はい。全国の中でも山形県は一等米比率が高いポジションを維持してきました。それで、今年の夏は大変な天候ではありましたが、生産者の皆さんは一生懸命手立てを講じておられましたので、一等米比率の数字を見まして、本当にショックを受けました。生産者の皆さんのショックはどのくらいであったろうかというふうに思うところです。

特に庄内がですね、30%くらいだというふうに聞いておりましたので、あれだけ広い庄内平野で米作りをされている方々の落胆ぶりと言いますか、そういったことを考えると、本当にもう胸が痛む思いであります。

☆フリー質問

記者

河北新報の奥島です。よろしく申し上げます。

今の米の一等米比率のお話に関連して、高温耐性を見せて躍進が期待される「雪若丸」なん

ですが、生産拡大に向けて今動いてらっしゃるということだったのですけれども、販売促進に向けては、県のブランド米として先行した「つや姫」ほどのまだ、成功には至っていないのかなという印象があるのですが、販売促進に向けた課題をどのように認識されているか教えてください。

知事

はい。「雪若丸」につきましては、今記者さんがおっしゃったようにですね、「つや姫」に比べますとまだまだ途中かなと、認知度をもっともっと高めなければいけないというふうに思っているところです。人気俳優の田中圭さんにですね、お願いをしているわけなんですけれども、少しずつ認知度は向上してきたというところがありまして、雪若丸ファンも少しずつ増えているのかなという、そういう手応えを感じているのですけれども、まだまだだなというところもあったので、まずこの高温耐性があるということが一つ分かりましたので、これを一つ大きなPRの武器と言ったらなんですけれども、雪若丸の特性というものをですね、しっかりとお伝えをしながら、ちょっとは生産量も増やしながらですね、存在感を示して普及していければなというふうに思っております。

ただ、生産者の皆さんからたくさん声を聞いてはいるのですけれども、種籾の量がありますので、一気にえぬきと替えるとか、そういうところまではちょっと、そこまではちょっとまだ難しいのかなというふうにも、担当から話を聞いて思っているところです。ただ、着実にですね、やっぱり増やしていければと、そして生産者の皆さんの所得向上につなげていければというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。すいません、あと別の話題でもう2点お伺いします。

改めてにはなるのですが、知事の5選出馬について質問させていただきます。知事は9月の新庄市長選以降、大石田町長選とか米沢市長選とかで、非自民系候補への支援を鮮明にされているかと思えます。ここまで立て続けに特定候補の応援に入ることはこれまであまりお見かけしなかったかなというふうに思うのですが、タイミングを考えると5選出馬に向けた準備との憶測を呼んでもおかしくないタイミングかなとは思いますが、あらためて候補者応援に関する知事のスタンスと5選出馬に向けたお考えをお聞かせください。

知事

分かりました。タイミングという視点から見ると、そんなふうにとられたんだなというふうに、ちょっとびっくりしているんですけども、そう思えなくはないのですけれども、ただ、たとえば新庄市長選の時はですね、新人でありました方が私を支援したということでね、会派からちょっと出ざるを得なかったようなこともあったので、何としても当選していただきたいという思いがありましたので、応援に行ったという経緯がありますね。2回も行ったというの

がちょっと、かなり要請をいっぱいいただいたというのもあるのですが、1回でも良かったのかなという思いはもちろん、今頃になって、行き過ぎたというふうに捉えられたのかなとは思いますが。

あと、大石田のほうはですね、同じく新人の方に応援に行ったわけですが、あそこは非自民じゃなくて、自民同士の対決だという認識を持っております。ですから、新人のほうのお父さんが、私の大石田の後援会長だったというようなこともありますし、本人も私の子どもと同級生だったみたいなのところもあって、前から知っていたんですね。本当にしっかりとした若者だなと思っておりましたので応援に行ったという経緯があります。

米沢市長選は今、たけなわな訳なんですけど、近藤さん、名前を出していいのかな、私を支援してくださっているということで恩返しとして行った訳であります。私のスタンスはそんなに変わっていないんじゃないかなと思っております。

記者

あらためて、5選に向けたところについてのお考えは。

知事

そうですね。私の考えと言いますか、まず本当に今、目の前の課題が山積しております、経済を復活させたいとかですね、そういう思いもありまして、物価高騰がずっと長期化をしていたり、観光ももうちょっと復活させて、コロナ前に戻したいというような思いもありますし、そういったさまざまな目の前の課題、たくさんあります。12月議会目の前、また来年度、令和6年度の当初予算に向けてやはり検討を始めなければいけないというような時期にもなっております、今本当に目の前の諸課題にしっかりと取り組むということを考えておまして、私自身の選挙ということについては、まだ考えが及んでいないところでございます。

記者

最後になりますが、知事はこれまで米沢トンネル（仮称）の整備を課題に挙げて強い思いを持って取り組まれてきていると思うのですが、来年度までだと、JRとの共同調査を行うということで、知事の現在の任期中だと調査までということなのかなというふうなスケジュール感だと思うのですが、その後の事業化ですとか着工ですとかを現職の知事として見届けたいというお考えはありますでしょうか。

知事

そうですね。とにかく着工にこぎつけたいという思いはありますね。先般の国土交通省で開催された「地域の公共交通リ・デザイン実現会議」というのがあったのですが、そこへも臨時委員として出席してまいりました。その場で申し上げたことはですね、やっぱり山形新幹線の米沢トンネル（仮称）の整備の重要性ということを説明し、それから本県で取り組んでい

る「やまがた鉄道沿線活性化プロジェクト」そういったことについて申し上げてまいりました。そしてまた鉄道の機能強化ということには、政府として推進すべきであるということなども申し上げてきたところであります。

やっぱりあそこのトンネルというのが、山形県の未来があつたトンネルにかかっていると言っても過言ではないと私は思っておりますので、できるだけ早く着工にこぎつけてほしいという思いはありますし、そのためにもやはり、政府にもですね、支援といったこともお願いしたりですね、JRさんともいろいろ話し合ったりというようなことで、とても大事な、大きな重要な課題だなというふうに思っているところです。

任期中にと言われると、なかなかやっぱりそこはね、どうなるのかなという思いは持っておりますけれども、その辺はとにかく現在できることを精一杯、将来のために頑張りたいというふうに思っています。

記者

毎日新聞の熊田です。よろしくお願いします。

昨日ですね、JR東日本のほうから、2022年度の利用の少ない線区の経営情報の開示がなされましたけれども、その中でこれまでの19年度、20年度、21年度分でも出ていました県内の羽越線、それから左沢線、陸羽西線等々の収支状況という数字が出ましたけれども、JR東日本は、こういった数字を出して今後どうするかという具体的な論評というのはしていないようですけれども、一方、県では先ほど話も出ました、沿線の地域活性化プロジェクトをやられたりとか、それから来年の春にJRさんと組んだキャンペーンを展開するというふうな情報も聞いておりますけれども、この数字の無言の圧力というか、そういうものを見るとですね、鉄道利用者の方の不安というのは増すばかりなので、プロジェクトとかの実行で、この数字にある程度変化をもたらさなきゃいけないのかなというふうに思うのですけれども、プロジェクトの具体的な実行とかを早めるとか、赤字路線、それから今回開示の対象になっていませんけれども、米坂線の復旧ですね、それから陸羽西線の新庄から余目までの鉄道の継続と、そういう問題も含めてですね、知事がどうお考えで、今後どうするお考えかを伺いたいと思います。

知事

はい。昨日、JR東日本から昨年度に引き続いて、利用の少ない線区の令和4年度の経営情報が開示されました。県内では5つの路線7つの線区について、開示されたことは報道で承知をしております。

これまで申し上げておりますように、鉄道というのは、通勤・通学など地域住民の皆さんの日常生活を支える交通機関であります。そしてまた、観光などのさまざまな広域的交流を生み出すものであって、ネットワークとして県内各地域がつながることによって、鉄道網全体の価値が最大限に高まる、そういうものだというふうに考えております。

また、鉄道は、環境負荷が低いです。SDGsやカーボンニュートラルといった視点からも考

えるべきではないかというふうにも思っております。

それで県では、記者さんからもご紹介ありましたけれども、昨年度「やまがた鉄道沿線活性化プロジェクト推進協議会」を設置いたしまして、JR東日本や市町村、経済界、関係団体等が連携し、県内一丸となって沿線活性化に取り組む体制を構築したところです。この協議会を中心に県内全域にわたる鉄道沿線活性化の取組みを一層加速させることで、県内の地域活性化と鉄道の利用拡大の双方を実現してまいりたいと考えております。

やはり、地元の熱意ということが大事だと思っておりますので、県だけではなくて、やはり鉄道沿線の市町村でありましたり、住民の皆様でありましたり、本当に一緒になってそれを取り組んでいくのが大事だというふうに思っております。

何と言っても鉄道はですね、大事な大変重要な公共交通機関であります。不可欠な社会インフラでありますので、採算性だけにとられるのではなく、全国的な鉄道ネットワークの維持・確保をどうしていくのか、政府において方向性を示していただく必要があると考えております。

ちょっと過激なことを言いますが、たとえば過疎化して人口がどんどん少なくなって、たとえば北海道がですね、どんどん鉄道が廃線になっていくというようなこと、そんなふうになればですね、そこにまた人がさらに住まなくなる、人口減少、その地域の過疎が加速するというふうに思います。そういうことがどんどん展開されますと、やっぱり今、国際情勢が不穏な時でありますし、そんなことも考えながらやはり、政府として全国的に幹線ネットワークをどういうふうにしていくのかとか、あるいは将来の観光も考えて、しっかりと日本中を鉄道できちんと結んでおくといったようなことをですね、やっぱり民間のそれぞれの鉄道業者だけに考えさせるのではなくて、政府がやはり音頭をとって、そういう全体的な目で見えていく、検討していくというのが望ましいんじゃないかというふうに私は思っているんですね。

記者

ありがとうございます。先ほど河北（新報）さんからも質問がありました、米沢トンネルとも関連して、米沢トンネルがですね、開通した折には、木で言うと幹が太くなって枝葉も繁るという、花笠音頭みたいな表現ですけども、ただ米沢トンネルの幹が育つ前に枝葉が枯れてしまっただけは元も子もないというか、ですので、その枝葉を維持するためのプロジェクトというのを加速化させなきゃいけないのかなとも思うので、その辺いかがですか。

知事

本当に素晴らしい表現だと思います。ありがとうございます。おっしゃる通りであります。将来ということはやはり、幹線鉄道の沿線だけではなくて、県内全般のことを私はやっぱり考えておりますので、そういった横軸でありましたりね、いろいろありますから、公共交通ネットワークとしてしっかりと維持をして、そしてどの地域にも人が住んでいけるというふうにしていくのが大事だと思っております。そのためにもやはり、単なる目の前のその一つの路線の

採算性ということではなくて、全体的な目で見ていただきたい、JR東日本さんにはやはり、東京という大きな人口を抱えているところの交通網を担っておられるわけだし、一方で人口が少ないところも担っておられますけど、やっぱり総合的に考えていただきたいと思いますし、政府には先ほど私が申し上げたように、やはり地方創生、国土という視点でしっかりと、国土が維持できるようにすることが大事だと思っていますので、そういった観点からも鉄道というものをしっかりお考えいただきたいというふうに思っております。

記者

山形新聞の鈴木です。よろしくお願ひします。

まずタイのトップセールスについてお聞きします。観光会社・旅行会社に行かれるということでしたが、それは県内へのチャーター便の就航などの要請なども含まれているのでしょうか。また、どのようなところをですね、タイの方々にアピールしてくるということでしょうか。

知事

そうですね、私が内容的に聞いておりますのは、航空会社や旅行会社等というところは訪問するというところであります。

それから、PRする内容というのは観光資源でありましたり、世界中を旅行する方にとってはやはりおいしいものがあるというのもとても大きな要素だと聞いております。観光のプロフェッショナルのような方からそのように、泊まる場所と食べるもの、そういうところは必要だというようなことを聞いておまして、だからおいしいものもたくさんあるということとその観光資源ですね、精神文化でありましたり、いろいろなお祭りでありましたり、伝統、文化、歴史、タイの方々がどういったことに興味・関心があるのかということをやはり考えながら、担当と一緒にそういうことも色々と、探りながらというのはおかしいんですけども、やはりそういうこともしっかりと考えてPRをしなければいけないなというふうに思っているところです。

記者

知事の思いとしては、チャーター便について、タイからのチャーター便就航というところは要望してきたいという思いはあるのでしょうか。

知事

そうですね、トップセールスを実施してくるということですので、航空会社にも行きますので、そういうことも要望といいますかね、こちらから働きかけもしてきたいかなとは思っております。どういう内容というようなことについてはまだ打ち合わせをしていないところがありまして。

記者

ありがとうございます。もう1点、先ほどモンテディオ山形についてお話がありました。知事が3月に行かれたときは、まだチームはどん底の状態だったと思うんですけども、それから監督も交代して今の位置に来たわけですが、あらためて知事、この1年間、このシーズン、モンテディオ山形をどのように見られていて、この躍進についてはどのようにお感じになっているかお聞かせください。

知事

そうですね、本当に先ほど申し上げましたが、尻上がりに調子が良くなってきたというか、紆余曲折はあったんですけども、粘り強く戦って、最後に連勝して、そしてこのプレーオフまでこぎつけたというのは、私はものすごい力を持っているチームだなと思っています。やはり新しい監督のもとですね、だんだんと調子が上がっていくのかなというふうに期待をしたりしております。

良くはわからないんですけども、チームで力を発揮するわけですから、チーム全体が盛り上がってきているのかなというふうに思います。応援団も、非常に応援に行く方々の数もですね、結構増えているやに聞いておりますし、そういう面でもやはり応援する者、また競技する者ということで、しっかりかみ合って良い方向に行っているのかなというふうに思っています。

まずあれだけの観客を動員できるスポーツというのなかなかありませんので、本当に県民皆に元気と活力をもたらしてくれているなというふうに思っています。

記者

朝日新聞の高橋です。

先ほどのJRの収支発表の件で関連してお伺いしたいのですが、昨年も同様の質問があったかもしれないんですけど、あくまで今回で言うと、5路線7区間すべて鉄路での維持というのが重要と考えていらっしゃるのか、その公共ネットワークという意味で言えばバスなどの、いわゆる転換というのも一つの手段かとは思うんですけども、その辺に関してのお考えはいかがでしょうか。

知事

はい、そうですね、やっぱり原点は鉄路かなと思います。というのは、先ほど申し上げましたように、全体のネットワークというのが大事だと思いますし、それから環境負荷が低いという、やはり脱炭素化のためにも非常に有効な乗り物だというふうに思っていますので、また大量に、運べるというのはおかしいんですけど、輸送できるということもありますから、ひとつはやはりきちんと鉄路が大事であるというふうにも思っています。

ただ、沿線の皆さんも色々お考えになって、色々な方法があるならばですね、そこまでダメだというふうに私は申し上げる気はないです。第一はその沿線の人たちがどういうふうにお考え

ているかということをお大事にして、一緒になって取り組んでいきたいというふうに思っているところです。

記者

最後に、先ほどのご発言の中で、これはかねてからのご持論だと思うのであえてお伺いしたいんですけど、国際情勢が不穏なときというところの中で、国土との観点でのご指摘かと思うんですけども、これはかねてからのご持論だと思うんですけども、もう少し詳しく、どういったご懸念なのかをお伺いしたいのですが。

知事

それ以上はあまり申し上げられないんですけども、やっぱり世界中で侵略というようなことが、あっちで起きていたらまたこっちでも起きているというような状況がありますので、本当に思いがけない展開がありますから、やっぱり油断はできないと思います。

やっぱりそういった付け入る隙を与えないと言いますか、やっぱり国土全体にしっかりと、政府としては目配りをしていくというのが大事なのではないかなと私は思っています。

記者

共同通信の中村です。よろしくお願いします。

宮城県の大衡村に台湾の半導体工場が新設されるというふうに今月発表がありました。まず知事の受止めと、県内に経済効果だったり、期待することがあれば教えてください。

知事

はい。本当に素晴らしいことだなと思って、わが県としても、隣の県のことではありますけれども、大変喜ばしいことだなと思いました。よく頑張ったなというふうに思いました。正直、羨ましいとも思いました。

熊本にね、台湾の大きな企業が進出するということを知って、いろいろな映像で若い人がそこに外国からも集まっているとかね、そんなことを聞いていますと、やはり台湾と交流もしてきている本県としてですね、ぜひ本県にも進出と言いますか、立地していただきたいという思いもあって、東京に台湾の出先機関があるんですけどね、大使館という名前ではなくて、多分経済代表処とかそういう名前だったと思いますけど（補足：正式名称は「台北駐日経済文化代表処」）、そういうところにも産業労働部長と一緒に行って、「ぜひわが県に」というようなことも申し上げたこともあります。

ということで、やはり宮城県に立地するというのは大変喜ばしいことだと思っていますし、それに付随してですね、やっぱり地続きであります隣県としても、どのようなことができるのか、しっかりと検討して、何ができるのかを検討して取り組んでいければというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。やはり台湾からも非常に人材も来るそうですし、あれだけ大規模なものになると、技術者だったり、そのご家族の方とか関連企業も非常に仙台市近郊にたくさん来るのかなという感じがするんですが、山形県に良い効果を生むために、現時点でやっていきたいこととか取り組んでいきたいことのお考えがあったら教えてください。

知事

はい。そうですね、これからそれについてしっかりと取り組んでいくということになりますが、やっぱり関連企業、その企業さんの関連企業といったところもですね、こちらとしては来ていただければとも思いますし、あと、観光とかですね、そういった面でも本県にも良い影響があるようにしていければというふうにも思っています。

記者

読売新聞の中田です。

先ほどから出ています鉄道の件なんですけれども、地元の熱意が大事だというお話でしたが、その地元には県も含まれるのかなと思っておりまして、山形県としてもやっぱり積極的に維持に向けて取り組んでいくのか、それは変わらないスタンスでしょうか。

知事

はい、そうですね。第一義的には沿線自治体、そして県も、ということになると思います。

記者

その中でなんですけれども、「(やまがた鉄道) 沿線活性化プロジェクト」の中で、例えば今後、乗車している人たちの人数を増やすという具体的な数字の目標が、利用者数を具体的に何人に増やすとか、何%増やすとか、あとは経済効果がこれくらいあるんだとか、もう少したとえば数字とかで何か示していくとか、そういった考えはありますでしょうか。

知事

そうですね、米坂線はまだ、今運行になっていないわけなので、そこはやっぱり復活に向けてということになりますが、その他のところで活性化プロジェクトということで、利用拡大ということでもありますので、人数も増やさなきゃいけないし、あと貨物と言いますか、他にもさまざまな活用策、があると思いますので、そういったことについてもしっかりと活用拡大という方向で取り組んでいければというふうに思います。

記者

プロジェクト会議の中でそういうのも今後議論していかなきゃいけないという認識でありますか。

知事

そうですね。

記者

NHKの岡野と申します。よろしくお願ひいたします。

冒頭の話に戻ってしまうんですけども、一等米比率の関係でして、知事が最後に暑さに耐性を持つ新たな品種の開発であるとか、栽培方法の研究を加速させていくということだったんですが、これは具体的に何か進んでいるものがあつたりするのか、また具体的にどういった計画があるのかというのがもしあれば教えていただきたいのですが。

知事

そうですね、本当に詳しいことは担当ということになるかもしれませんが、雪若丸以外のもので、やはり品種というものも今視野に入れているということは聞いております。

これ以上のことは担当でないといけないところがございますので、よろしくお願ひします。

記者

今までになかった新しい品種というそういう捉え方でよろしいですか。

知事

はい、そういったことも視野に入れていると聞いております。

記者

時事通信の海老沼です。よろしくお願ひします。

私からはライドシェアについてなんですけれども、一般のドライバーが有償で乗客を送迎するというライドシェアについて、先日、岸田首相も年内を目途に方向性を出してできるものから速やかに実行していくというような早期導入の方針に向けた発言がございまして、知事としてはこの山形県としてライドシェア導入について、先ほど鉄道の話とかもありましたけど、どう考えていらっしゃるかお考えをお聞かせください。

知事

そうですね、実際にこのコロナ禍を経てタクシーの運転手さんの数が激減したと聞いております。そして最近であっても、たとえばお願ひをしてもなかなか来てもらえないというような

状況もたまにあったりとかですね、一年中ではないですけども、そういったことも実際に聞いているところであります。

そういった状況と、それからインバウンドといったことがどんどん増えてきている、これからも増えるだろうというようなことも考えますと、そういった手法もですね、やっぱりひとつの方法としてあるのかなというふうに思っております。

あと、どのような課題があるかとかですね、そういうことについては内部でしっかり検討してみたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。ライドシェア自体については、結構前向きなお考えで捉えていらっしゃるというようなことですか。

知事

そうですね、今さまざまな業界で人手不足というのが本当に連続というかずっと続いておりますので、やっぱりそれぞれの業界で対処していく必要があるのかなということを考えますと、いわゆるタクシー業界、運送業界まで入るかどうかわかりませんが、やっぱり様々な可能性といったことを探っていき、それを実施しながら、一時にドーンと増やすということではなく、ある程度モデル的でもいいんですけども、そういうことを実施しながらその課題といったこともね、検証して広げていくのがいいのかなと思っています。

ただ、都会の事情はそれは待たないのかなもしれませんし、地方ではそういった色々な検証といったことも考えながらやっていける状況なのかどうか、そこはやっぱり担当と話してみたいと思います。